

## 松川町リニア中央新幹線建設工事対策委員会〔第12回〕会議録

1. 附属機関等の会議の名称 松川町リニア中央新幹線建設工事対策委員会〔第12回〕
2. 開催日時 令和2年12月25日（金） 19時00分から20時45分まで
3. 開催場所 松川町役場 2階 大会議室
4. 出席者氏名  
【松川町リニア中央新幹線建設工事対策委員】※敬称略  
大蔵秋利、高坂義宏、饗庭光雄、大澤今男、清水正育、唐澤功、下澤洋貞、米山俊孝、川瀬八十治、黒澤哲郎、寺沢秀文、松下敏章、熊岡正志、小澤文人、中島芳夫、宮下彰、北林誠、井上美智恵、小林幸彦、松浦善文、松下正博、田中真喜子  
（欠席者：西條和男、橋爪和也）  
【JR東海】  
中央新幹線建設部 名古屋建設部 古谷担当部長  
中央新幹線 長野工事事務所 平永所長、齋藤主席、工藤主席  
// 大鹿分室 太田垣分室長、三品係長  
【長野県】  
飯田建設事務所リニア整備推進事務所 調整課 折井課長、齋藤課長補佐、平担当係長  
【飯田市】  
リニア推進部 細田部長、下平リニア推進課長  
【喬木村】  
高速交通対策課 井澤課長、吉川計画調整係長、白井主査  
【役場】  
宮下町長、久保副町長、小沢課長、佐々木室長  
田中課長、小木曾課長、矢沢課長、池上課長、下井課長、塩倉課長、加山局長
5. 議題（非公開）
  - （1）委員長の選出について
  - （2）飯田市・喬木村の公共事業における発生土運搬について
  - （3）発生土運搬に係る地元説明会の開催状況について
  - （4）生田地区発生土置き場候補地の状況並びに新たな発生土活用先について
6. 非公開の理由（会議を非公開とした場合）  
—
7. 傍聴人の数  
11人
8. 会議資料の名称
  - ・会議次第、資料（町作成）
  - ・別冊資料（飯田市作成）
  - ・別冊資料（喬木村作成）
  - ・別冊資料（JR東海作成）

## 9. 会議の概要

- (1) 開会
- (2) あいさつ
- (3) 会議事項  
上記のとおり
- (4) その他
- (5) 閉会

## 10. 会議録

### (1) あいさつ

(宮下町長)

皆様改めましてこんばんは。本日は大変お寒い中、またお疲れのところ当委員会にご出席いただきまして誠にありがとうございます。また、日頃から松川町の町政に対しまして大変ご協力いただいておりますことに厚く感謝申し上げます。リニア中央新幹線については、松川町を含め飯田下伊那地域を挙げて整備推進を図ってきたところです。また、大鹿村内におけるトンネル工事が進められる中、トンネル掘削による発生土の活用ということで、現在飯田市と喬木村への発生土の運搬が行われていますが、来年の夏以降からはJR東海による本格的な発生土の運搬が計画されてきております。松川町では10月28日以降、関係地区やPTA、沿線事業者を対象としてJR東海より運搬計画を説明し、質問意見をいただいているところです。本日はその状況について報告させていただきます。また、生田の発生土置き場候補地の検討状況についても報告させていただきます。発生土運搬に関しては、町として町民の皆さんの安全確保と不安の解消に努めてまいります。また新たな発生土活用の候補地についても、町が率先して関わってまいります。本日もたくさんの協議事項がありますが、委員の皆様より様々なご意見をいただければと思います。どうぞよろしくお願ひいたします。

(JR東海/古谷担当部長)

改めましてこんばんは。日頃はリニア中央新幹線の事業に対しまして対策委員会の皆様にご理解とご協力を賜り誠にありがとうございます。さてこの一年ですが、新型コロナウイルスで世界的に大変な一年であったと思っておりますが、こうして定期的に委員会を開催していただき、JR東海からご説明させていただく機会をいただいていることに本当に感謝しております。長野県のリニアの工事については、大鹿村では引き続きトンネル掘削を行っております。また豊丘村、飯田市に加えて阿智村、南木曾町におきましてもトンネル掘削工事の準備工事ということで道路改良工事やヤードの整備を順次行っているところでございます。コロナですが、全く予断を許さない状況ではございますが、工事関係者一同しっかりと感染防止を行いながら引き続き工事の方は進めさせていただきたいと考えております。本日はJR東海の方からは、前回もご説明した松川町内の発生土の運搬計画について改めてご説明させていただきたいと思っております。本件については、前回のご説明後に地元の方に順次説明させていただきご意見をいただいているところでございます。改めて委員の皆様よりご意見を伺い、ご議論いただきたいと思います。本事業を進めるにあたりましては皆様方からのご意見をしっかりと伺い、議論をして、コミュニケーションを図って進めていくことが大切であると思っておりますので、引き続き皆様のご指導ご支援をお願いいたします。今晚もどうぞよろしくお願ひいたします。

(長野県/折井課長)

改めましてこんばんは。委員の皆様には平素より長野県行政にご理解ご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。また、当事務所で行っているリニア中央新幹線の調整業務に日頃からご協力いただき感謝しております。それに加えて前回の対策委員会よりご説明しています飯田市、喬木村への発生土運搬については格別のご理解をいただいていることに重ねて御礼申し上げます。本日の会議事項については、JRより来年の夏から運搬を予定している発生土運搬についての説明会の状況や松川

町内における新たな発生土の置き場について説明があると同っております。現在、各地区関係団体を対象に説明会を行っているところで、運搬にあたり安全対策や環境対策などのご意見をいただいているところですが、特に運搬ルートの再検討など、地元の負担低減についての要望が多く出されており、県としてもルートの分散化、町内での新たな発生土の活用についても町と連携しながら調整、支援を図っていきたいと考えているところです。リニア中央新幹線においては、これからトンネル工事、発生土運搬がいよいよ本格化してきますが、引き続き皆様のご支援ご協力をお願いしたいと思います。本日はよろしくお願いたします。

## (2) 会議事項

### (1) 委員長の選出について

- ・委員の互選により、黒澤哲郎氏（町議会議長）を選出。

#### (黒澤委員長あいさつ)

皆様こんばんは。ただ今委員長として選任された松川町議会でお世話になっている黒澤です。今回この会も12回を重ねるということで、途中からの委員長ということになりますが、皆様方のご協力の元に進めて参りたいと思いますので、どうかよろしくお願いたします。

### (2) 飯田市・喬木村の公共事業における発生土運搬について

#### ①飯田市より

##### (細田リニア推進部長あいさつ)

皆様改めましてこんばんは。日頃は飯田市におけるリニア関連の代替地整備事業に伴う大鹿村からのリニア建設発生土の運搬について、多大なるご理解とご協力を賜り御礼申し上げます。本日は当対策委員会のお時間をいただき、今までにお願いしてきました運搬の時期、期間と運搬量、台数についてお願いがあり参上しました。詳細については担当よりさせますが、具体的には1月並びに6月の当対策委員会において、この建設発生土の運搬に関し当初よりお願いしてきた経過があります。その中で、1月には当初100台往復の200台というお願い、また6月には喬木村と合わせて一日片道150台というお願いをしてきた経過があります。ただ、皆様ご承知おきのよう、7月の豪雨により小渋川河川内道路が被災し通行不能となったことがあり、当初予定していた通行が出来ませんでした。それに伴い運搬する量もどうしても間に合わなくなってきたというような事情があります。また、その一方で当初の代替地の整備事業については、既にリニア事業に伴い移転される方をお願いしておりますが、全区画73区画あるうちの半分程度の移転者が決定しており、一日も早い移転の要望を受けているところです。また、喬木村においても地域未来投資促進法という事業を入れる事情がある中で、長野県、喬木村、当飯田市において運行に関し調整し検討を進めてきました。それらを踏まえて本日お願いに上がりましたので、よろしくお願いたします。

〔下平リニア推進課長より説明〕

#### ②喬木村より

##### (井澤高速交通対策課長あいさつ)

皆さんこんばんは。喬木村の公共事業における発生土運搬について、ご理解ご協力いただき感謝申し上げます。6月の対策委員会において村の計画を説明させていただき、その後工場団地の行政手続きを進めていたところですが、そちらもスケジュールどおり進み、この計画について中川村、大鹿村にも12月にお話しをさせていただいたところです。本日ご説明させていただきますが、6月の予定スケジュールと変わりなく進んでいますので、繰り返しとなりますが、担当の方より説明させていただきますので、よろしくお願いたします。

〔吉川計画調整係長より説明〕

【①②合わせて質疑応答】

・なし

(3) 発生土運搬に係る地元説明会の開催状況について

〔JR東海/齋藤主席より資料説明〕

〔役場/佐々木室長より説明〕

【質疑応答】

(松下正博委員)

県道松川インター大鹿線と町道神護原線との交差点、下澤建材店前については、今回示されたルートの中では最も危険な交差点と言える。ここには信号機もないし右折レーンもない。しかも県道は大きなS字になっており非常に危険なところ。この改良を町としてどう考えているのか。

(松川町/佐々木室長)

この場所の危険性については、小中学校PTA代表、保育園保護者会代表の説明会においてもご意見いただいているところ。今すぐの改良は難しいとは思いますが、道路管理者である県、またJRと協議してまいりたい。なお、信号機の設置要望は既にしてあります。

(松下正博委員)

聞くだけではだめ。誰が見ても危ないところ。本気でやらないと重大な人身事故が起きる。ダンプが通ると更に危ないところ。“改良できなければ、ここは通れませんよ”と言うくらいで臨んでもらいたい。

(宮下町長)

保育園が出来てから、ここは毎年要望が上がってきており対応に苦慮しているところ。信号機の設置要望だけでなく、町として慎重に対応していかないといけないと認識しています。

(小澤委員)

商工会としても、リニアの駅が出来て東京などが近くなるので望むところ。しかしながら、今回の計画では上新井の交差点から東浦までの間のメインストリートが往復で一番通行量が多くなる計画。商工会としては、商工業者、上新井の商店街、またJA、役場、両側に小中学校があり、できればここは通ってほしくないというのが本音。ゼロにしろというのは無理かもしれないが、代案として町道護岸線の両側に道路を新設もしくは拡幅をしてもらい、そちらを主に通してもらいたいというのが商工会としての意見。町の顔であるメインストリートの両側をダンプが行き来することを想像しただけで怖い感じがする。ゼロにできなくても台数は減らしてもらいたい。風評でダンプ街道みたいになったら松川町は壊滅するのではないかと思う。小中学生の安全は勿論、商店街の発展にもかなり影響が出るものと思うので、強く要望するし、今の工程ではとても容認できない。

(松川町/佐々木室長)

町は住民生活を最優先に考えてまいる。皆様よりいただくご意見等を十分検討して、出来ることはJRに求めていく姿勢。JRへの要望事項については委員の皆様とご相談させていただく。

(JR東海/平永所長)

ご意見ごもっともであり、大変心配されるころだと思う。今回のお示しした計画は、松川町側に立って考えると厳しいお願いをしているものと重々自覚している。そのうえで分散については、どのように行っていくかを皆さんからいただいたご意見を踏まえて町としっかりと協議していきたい。また、発生土の持って行き先が確定してそこにどれだけの台数を運ばなければいけないかということが確定すれば、このルートに何台運行していきたいということが分かってくる。現在上限450台、550台という数字で説明をしているので、ダンプ街道のようなイメージを持たれている

かもしれないが、そのようにならないように分散計画を立てて、改めてお示ししたいと考えている。

(小澤委員)

先程も言った、松川の護岸線に新設路線を造れば全て解決する。また、町としても発生土をどこかで受け入れるということを進めていけばダンプの台数は減るわけ。その辺も町には考えてもらいたい。

(宮下町長)

当然の話かと思う。やはり運ぶとなっても一台 3.5 m程度と聞いている。町内で受けていただける場所を現在も話をしているところ。そこが多くなれば台数も減る。ただ、その地域にもその分負担をいただくということで今話を進めさせていただいている。以前もこの会でご指摘をいただいたが、地権者でまとまってからというのではなく、町の方からお願いをしてということで次回の会での場所を報告できるように進めてまいる。

(熊岡委員)

喬木村の資料によると、今月の通行量は 112 台。飯田市へ 72 台、喬木へ 40 台という台数が示されているが、今日も国道を通ったがそれほど苦にはならない台数かと思った。これが 1 月の後半からは 222 台となり倍になる。これは国道なので他の県道や町道に比べれば条件は良いところであろう。要望事項にもあったが、例えば 550 台というイメージができない。松川インターから東浦間は往復で 1100 台になり、30 秒に 1 台ぐらいでダンプが通ることになる。考えただけでとんでもない数字で非常に不安。加えて秋の観光シーズンになると、毎年遠くからお客さんが見えて松川インターを下りられない状況になる時もあり、松川インターの 1 箇所だけに集中させてしまうのは無理があると思う。550 台という数字は掘削機械の能力から算出されているのか説明いただきたい。

(JR東海/古谷担当部長)

大鹿村で現在掘削工事を行っているのが 4 箇所の非常口である。その 4 箇所の非常口から出てくる発生土量をそのまま運搬するとこれぐらいの数字になるのではということで算出しているが、当然大鹿村の中でも仮置き場や本置き場も計画している。また、松川インター大鹿線沿いの中川村の中にも発生土を使って道路改良する計画で進めているところもある。そのようなところで調整を図りながら、この台数を算出している。当然、この台数は上新井の交差点から全て松川インターへ行くという数字ではなくて、上新井交差点から北や南へ分散させること、あるいは上新井交差点より手前で北や南へ分散させること、更に上新井交差点へ来た台数を 3 つのルートで分散できないかということで検討させていただいているところ。その台数をはっきり説明できないことは大変申し訳ないが、発生土を持っていく場所が決まり運搬台数等が確定してきたら、分散の台数などを地元の方へ説明させていただきたい。

(熊岡委員)

現在の 112 台という台数は、現状の台数でいいのか。

(JR東海/古谷担当部長)

今運んでいる喬木村への 40 台と飯田市への 72 台を足した 112 台が今月の合計台数ということで書かれているが、この台数は上限になるので、これ以上運ぶことはない。

(熊岡委員)

それでは今日私が感じたのは、MAX ではないということか。

(JR東海/古谷担当部長)

おっしゃるとおり。ダンプを呼んでくる台数や天候、掘削の状況によって台数が少なくなる時もあるが、掘削が順調に行った時もこの台数以上を走らせることはなく、この台数を上限として飯田市と喬木村の方へ運ぶことで進められている。

(熊岡委員)

222 台になるということは、今の倍になるということではないのか。

(JR東海/古谷担当部長)

おっしゃるとおり。現状の 112 台が 222 台になるということで数字的には今のほぼ倍になる。この数字は MAX の数字だと認識いただきたい。

(田中委員)

町の中を通ることにより事故や振動に関しては意見が出ているが、松川インターまでの高低差のあるところをダンプが上ることで、かなり排気ガスが出て空気が汚れることにより、喘息を持っている方の病態の悪化とか、これまで何ともなかったお子さんの調子が悪くなるなどの健康被害も考えられるとあって、なるべく街中を通らない、人に影響のないようなルートを考えていただきたい。

(JR東海/太田垣分室長)

ダンプから出る排気ガスをできる限り抑えるためにしっかり点検整備を行って、悪い排気ガスが多く出ないように配慮していきたい。健康被害については環境基準が定められており、それに対してモニタリングしていくが、現在でも中川村の渡場で行っており、確認しながら運行している状況。松川町においても検討していきたい。考え方として、環境基準内であれば良いといった考えではなく、可能な限り少なくすることで考えていきたい。

(松下正博委員)

松川インターまではかなりの勾配があり、ここを積載したダンプが上がりなくてはならない。その際、一般車の渋滞がかなり懸念される。広域農道は現在では幹線道路となり、観光バスや県外車も多い路線だが、ダンプによる渋滞への対応はどう考えているのか。また、渋滞が生じた際の一般車への周知方法に考えはあるか。

(JR東海/平永所長)

シミュレーションを行う際は、交差点付近で信号に掛かった車が渋滞せずにはけるかどうかということを検討しているが、坂道において、ダンプの速度が落ちることにより渋滞が発生するという検討も今後合わせて勉強してまいりたい。

(4) 生田地区発生土置き場候補地の状況並びに新たな発生土活用先について

〔役場/佐々木室長より説明〕

【質疑応答】

(黒澤委員長)

資料中の今後のところで、「町では、この取り下げを受けて、町の主導において本候補地は改めて検討を行っていきます。」と報告があったが、町主導において本候補地は改めて検討をするということは、候補地にするという方向で検討をするということではよろしいか。改めて検討するとは現時点でどう考えているのか。

(松川町/佐々木室長)

これまでは、丸ボッキ地籍は生東区主体で進めてこられたが、今後においては、町において地権者からの要望を聞いて、町でできることを考えていきたい。その際は、下流域となる福与区、部奈区は勿論、生東区とも協議を行い、ここが候補地となるかどうかを改めて町の方から地元へ投げ掛けさせていただきたい。

(宮下町長)

町として今候補地を探しているのは、発生土の運搬の量を少しでも減らすこと。また、地元で消費することにより台数の低減、分散につながる思いで進めさせていただいている。それと同時に、発生土を受け入れることで、地元の方には負担はいただくが、それにより地元が良くなることにつなげる思いでやらせていただいている。今回、発生土運搬を通して地元の方から大きな不安があるところだが、この事業を町の発展へつなげなければいけないと思いやっている。ご理解、ご協力をお願いしたい。

(3) その他

[全体を通じて質疑応答]

(饗庭委員)

リニアの発生土運搬については、現在ある道路を使って運ぶ計画で、最大のルートが上新井交差点から松川インターまでの間ということだが、大島区民の方から違った意見も出てきているので発表させていただく。「片桐松川沿いにダンプ専用道路を開け、そのまま高速へ入れる専用インターを造れば、一般の生活道路をほぼ使わずに済むのではないか。」というもの。

以上